学会の財政悪化の実態とその建直しの計画について

日本気象学会理事長　礒野謙治

日本気象学会では，郵送料金の改訂，印刷費の値上り，また機関誌「気象集誌」，「天気」の充実，学会活動活発化のため，学会費が昭和47年度から4年ぶりに値上げされました．しかし，第17期常任理事会が構成されて以来，経理状態を検討したところ，この値上げにもかかわらず，財政は引き続き悪化していたことが，明らかになりました．

昭和43年度から45年度まで学会はほぼ収支の均衡を保っていましたが，昭和46年7月と同47年2月に郵便料金が改訂され，学会費の値上げがこれよりおくれた（昭和47年4月）ことが原因して，昭和46年度は実質的に約50万円の赤字となり，例年40～50万円あった繰越金は激減し，僅か5000円となりました．さらに，正野記念論文集発行その他の事業を行なったので，47年度末には少なくとも約140万円の赤字になると予測されます．また，このままで進むと，赤字額は年を追ってふえ続けると考えられます．

気象学会機関誌一部当りの印刷所に支払う代金，郵送料，編集費の合計はA，B会員共に学会費の約80%に相当し，印刷物頒布その他による収入が少ないため，学会の運営はきわめて苦しいのです．学会費は値上げしたばかりで，しかも安くありません．

学会はこの累積的な赤字を解消し，健全財政に建直すため，次に示す方策をとることになりました．

1. 昭和47年度

「気象集誌」50巻第6号，「天気」19巻第12号，20巻第1号，2号計4冊の印刷費の支払分約220万円は印刷所の厚意により翌年度にまわしてもらうことになった．「気象集誌」，「天気」は基準ページを守り，他の学・協会で採用されている学会費の前納制度を確立することによって，この窮状を極力軽減させるよう努力する．

2. 昭和48年度

年度当初，学会費の前納によって前年度分の印刷費の支払いをすませる．学会職員の退職金およびこれの積立金等が最近の予算書には計上されていなかったので，健全な姿にするため，これに相当する約110万円の支出を昭和48年度に見込まなければならない．累積的な赤字は約250万円となるが，これを解消するため，「気象集誌」「天気」に決められた年間の基準ページ数を守り，さらに差し当り次に示す項目による増収（昭和47年度内で実施可能なるものは実行する）をはかることになった．

(1) 別刷によるもの

「天気」の場合はページ当り3円を6円に，「気象集誌」では4円を7円にそれぞれ値上げすることによって約50万円の増収を見込む．

(2) 印刷費の投稿者負担によるもの（「気象集誌」）

従来，刷上り16ページまで無料で，これを超えるものページ当り2,000円のページ・チャージであったものを，8ページを超えるものについて実費負担（現在ではページ当り6,000円）とし，約78万円の増収を見込む．

なお，(1), (2) については，投稿者の所属機関，団体が支払うものとし，支払えないものについては別途考慮する．

(3) 入会金によるもの

さいきんの入会者数は年間約190名であり，入会金は100円となっている．これは他の学，協会にくらべ安すぎるので500円とし，約7万円の増収を見込む．

なお，本件については定款第7条に規定されており，改正を要するので次期総会に提案する．

(4) 賛助会費によるもの

昭和47年度の賛助会費による収入は135万円であるが，これを200万円になるよう努力し，65万円の増収をはかる．

(4) 気象研究ノートによるもの

気象研究ノートは現在1号当り約1900部印刷しているが，これの頒布価格の若干の値上げ，また別刷価格の値上げによって約40万円の増収を見込む．

以上をまとめると昭和48年度の増収予定額は約240万円となり，累積赤字の大部分は年度内に解消されることになる．これら5項目のほか，春と秋に開催される大会の参加費を会員の場合200円から500円に，また予稿集頒布価格をそれぞれ値上げするが，これらによる増収分は特に地方で開催される大会の運営費（現在は学会から30万円支出している）の補充にあてる．

3. 昭和49年度

学会費は現在のまま据え置かれたと仮定して，必要経費のアップ分を見積ることにする．昭和48年度の印刷費は据え置かれるが，昭和49年度には前回と同様に25%程度アップすると約240万円，郵送料は13%アップすると約10万円だけ昭和48年度より上回ることになる．また人件費のアップ分は約30万円である．したがって，昭和49年度には主要項目だけひろっても，前年度より少なくも280万円だけ経費は嵩むことになる．したがって昭和48年度に見込んだ増収分だけではまかないきれないことになる．この不足分については学会費の値上げはさけられない見通しであるが，ページ・チャージをさらに引上げるなどして，値上げ幅を最小限におさえるよう努力する．

学会の財政建直しのため，ご協力をお願いします．

日本気象学会経理の現状は，きわめて苦しい状況に陥っています．学会員のみなさんの負担を最小限におさえたうえで，この赤字財政を建直すためには差し当り上述した5項目にのぼる増収をはからねばなりませんし，さしせまった昭和47年度の窮状を救うには学会費の前納（たとえば，3月のボーナス期に12月までのを納めていただくと好都合です）によるほかありません．これらのことをご理解いただいて学会員みなさんの絶大なるご協力を賜わりたく，切にお願いする次第です．

理事会では学会の赤字財政を建直すため，以上述べた方策をとることになりましたが，会員みなさんの中には，この処置に対してご不満を，また別の建設的なご意見をお持ちの方もあろうと存じます．このような声は日本気象学会事務局宛にお送り下されば，理事会でとり上げ検討させていただきます．

気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所
都市・建築と気象シンポジウム	昭和48年3月9日～10日	気象学会，建築学会	気象庁講堂
春季講演会	〃 3月23日	気象学会	気象庁
理工学における同位元素研究発表会	〃 4月17日～19日	気象学会他45学会	国立教育会館(東京虎の門)
春季大会	〃 5月22日～24日	気象学会	気象庁
Symposium on Dynamics of Meso-scale Meteorology and Fine Mesh Modelling	〃 5月25日～29日	WMO, IAMAP	イギリス (Reading)
Symposium on the Design of Water Resources Projects with Inadeguate Data	〃 6月4日～9日	UNESCO, WMO, IAHS	スペイン (Madrid)
メゾ気象に関するシンポジウム	〃 6月8日～9日	気象学会関西支部	京都大学楽友会館
Nucleation Symposium	〃 9月23日～29日	国際雲物理委員会	ソ連 (Leningrad)
秋季大会	〃 10月29日～31日	気象学会	仙台市